

1月22日午前1時8分頃 日向灘で震度5強の地震発生！ 南海トラフ巨大地震との関係は？

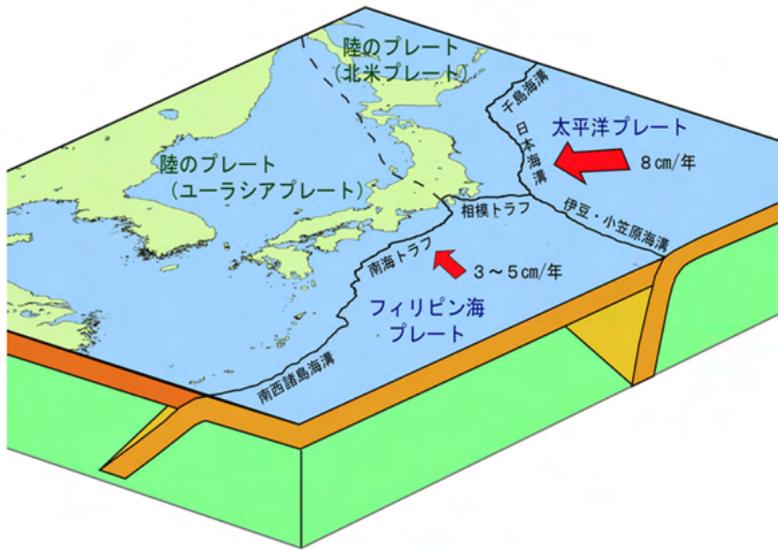
1月22日の震度5強の地震は、南海トラフの西端を震源とするもので、「南海トラフ巨大地震の前触れではないか？」との懸念も示されました。気象庁では、2月7日に第52回「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催して検討しましたが、「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない」との結論づけしました。

今回は一安心というところですが、過去の南海トラフ巨大地震を気象庁ホームページの情報で振り返ってみましょう。

<南海トラフ地震とは>

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。

日本付近のプレートの模式図

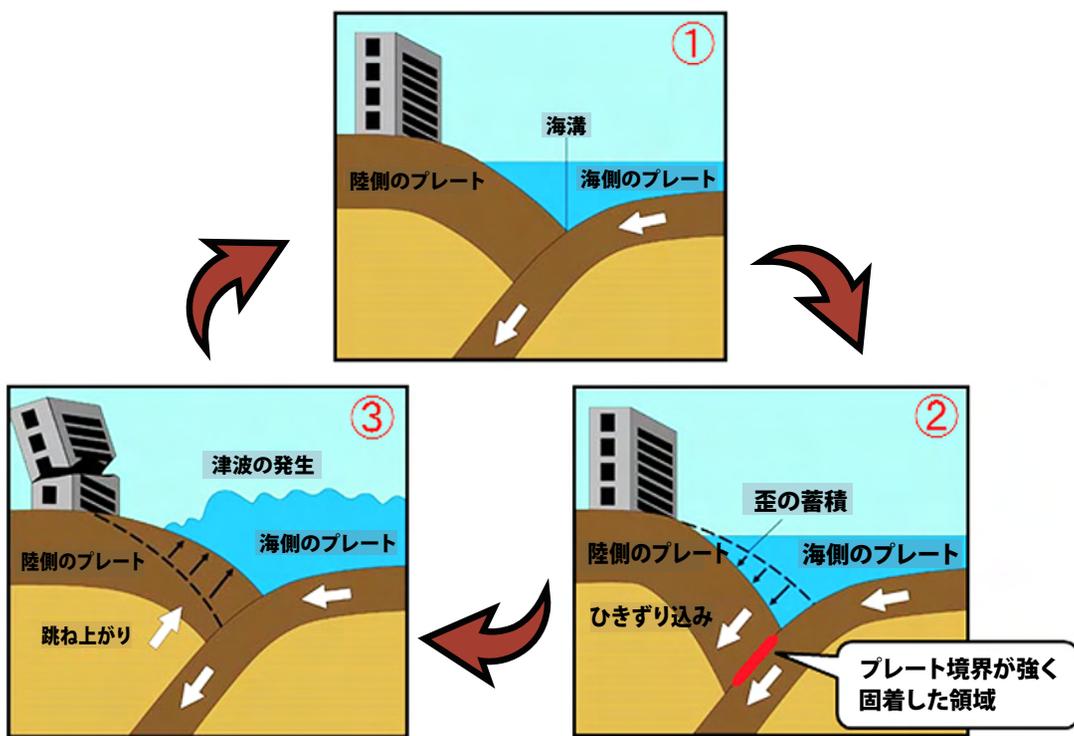


この南海トラフ沿いのプレート境界では、下の「南海トラフ地震の発生メカニズムの概念図」ように

- ①海側のプレート（フィリピン海プレート）が陸側のプレート（ユーラシアプレート）の下に1年あたり数 cm の速度で沈み込んでいます。
- ②その際、プレートの境界が強く固着して、陸側のプレートが地下に引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます。
- ③陸側のプレートが引きずり込みに耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がることで発生する地震が「南海トラフ地震」です。

①→②→③の状態が繰り返されるため、南海トラフ地震は繰り返し発生します。

<南海トラフ地震の発生メカニズムの概念図>



南海トラフ地震の過去事例を見てみると、その発生過程に多様性があることがわかります。宝永地震（1707年）のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。さらに、隣接する領域で地震が続発した事例では、安政東海地震（1854年）の際には、その32時間後に安政南海地震（1854年）が発生し、昭和東南海地震（1944年）の際には、2年後に昭和南海地震（1946年）が発生するなど、その時間差にも幅があることが知られています。

発生年	地震名称	前の地震との間隔
684年	白鳳地震	
887年	仁和地震	203年
1096年	康和地震	209年
1099年	永長地震	3年
1361年	正平地震	262年
1498年	明応地震	137年
1605年	慶長地震	107年
1707年	宝永地震	102年
1854年	安政東海地震	147年
1854年	安政南海地震	0年
1944年	昭和東南海地震	90年
1946年	昭和南海地震	2年
2022年	?	76年間未発生

<歴史上の南海トラフ巨大地震>

南海トラフ地震は左表のように、概ね100～200年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））が発生してから76年が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきています。「大災害を正しく恐れて備えを充分にする」ことがとても大切です。

